令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

# 「　三分　」

和歌山県　智辯学園和歌山小学校　６年　保田（やすだ）　結菜（ゆな）

私の母は、家からはなれた遠いところで仕事をしています。朝早くから、車でいろんなところへ行っています。

私が休みの日、家でダラダラしていると電話がかかってきました。母からでした。

「ちょっと帰りおそくなる。山くずれてる。」

という内容でした。私はそのとき、あまり深く考えていませんでした。母が帰ってきたのは５時くらいで、いつもより１時間程おそかったので、私は

「そんなに山くずれてたの。」

と聞きました。母は、

「そんなにひどくはなかったよ。でも、後３分おそかったら巻き込まれてた。」

と言いました。私は、母の言葉を聞いて朝のニュースを思い出しました。

「土砂災害があり、１名の死亡が確認されました。」

もし、母が３分おそかったら、死んでしまっていたのだろうか。

私は冷や汗をかきました。とてもこわかったからです。

小さいころ、よく庭で土遊びをしていました。そのときは、土遊びが楽しくて、土がこわいと思ったことがありませんでした。ですが、今、11 年間生きてきて初めて土がこわいと思いました。

「土は時に、凶器になる」

そう思いました。

私が体験した土砂災害は、雨がたくさん降ったのが原因でした。ですが、土砂災害がおこる原因は、雨だけではありません。例えば、地震です。大きな地震がおきると津波、山くずれなど、大災害がおきます。まだ私は体験したことはありませんが、いつかは必ず体験すると思います。

災害はいつおこるかわかりません。ですが、いつかは必ずおこります。いつおこるかがわからなくても、おきることを予想して対策することはできます。

山にはコンクリートがはられてあります。これは土砂災害がおきることを予想して対策した結果です。他にも斜面をコンクリートの壁でおさえる対策や土砂を受け止める壁や柵をつくる対策などがあるそうです。この対策で助かった人がたくさんいると思います。なので、つくってくれた人に感謝しています。

土砂災害で亡くなった人は１年で 60 人程だそうです。１年の内、大雨が降る日は少なくはありません。風がとても強い日もあります。大雨が降れば山や崖がくずれたり、風がとても強い日は木が倒れてしまったりします。このような災害で、命を無くしてしまう人は少なくはありません。私は、このように災害によって命を落としてしまう人を一人でも少なくしたいです。あわよくば、一人も犠牲を出したくないと思っています。そのためには、対策も大事ですが逃げることも大事です。ひ害が出る前に逃げることが大切です。

私は、この作文を通して、命の大切さと、災害のこわさを伝えたいです。